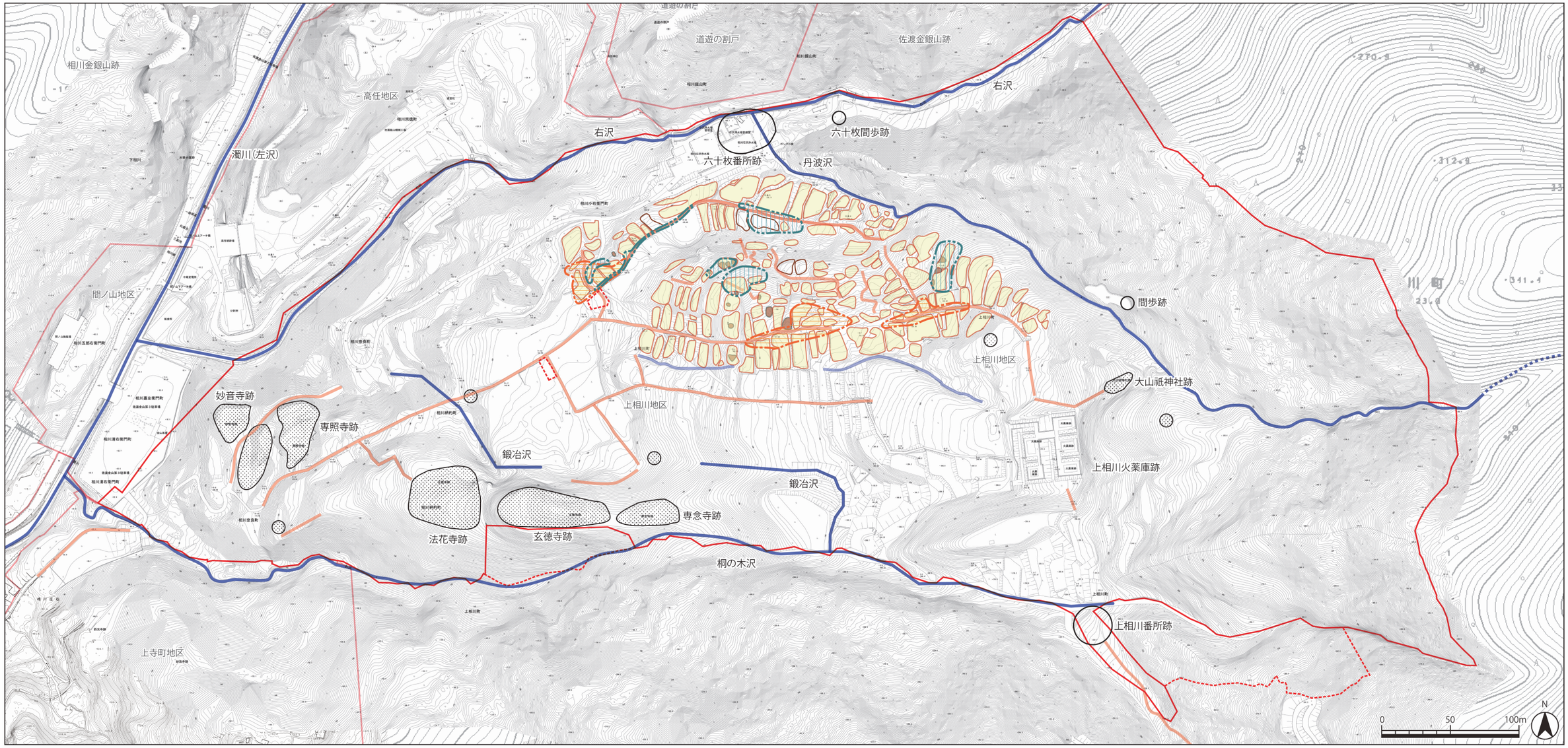


凡例

- 石製品集中区域
- ズリ集中区域
- テラス
- 羽口・鉱滓分布域
- 窪地
- 寺社・石造物分布域
- 道跡
- 水路跡
- 史跡指定地(上相川地区)
- 史跡指定地(上相川地区以外)
- 追加指定予定地(上相川地区)

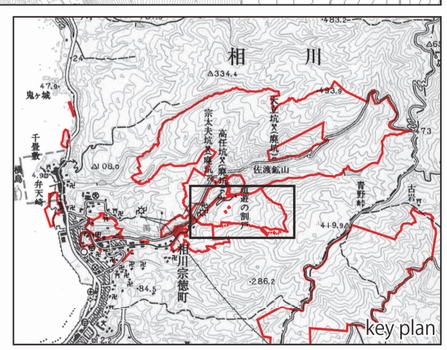
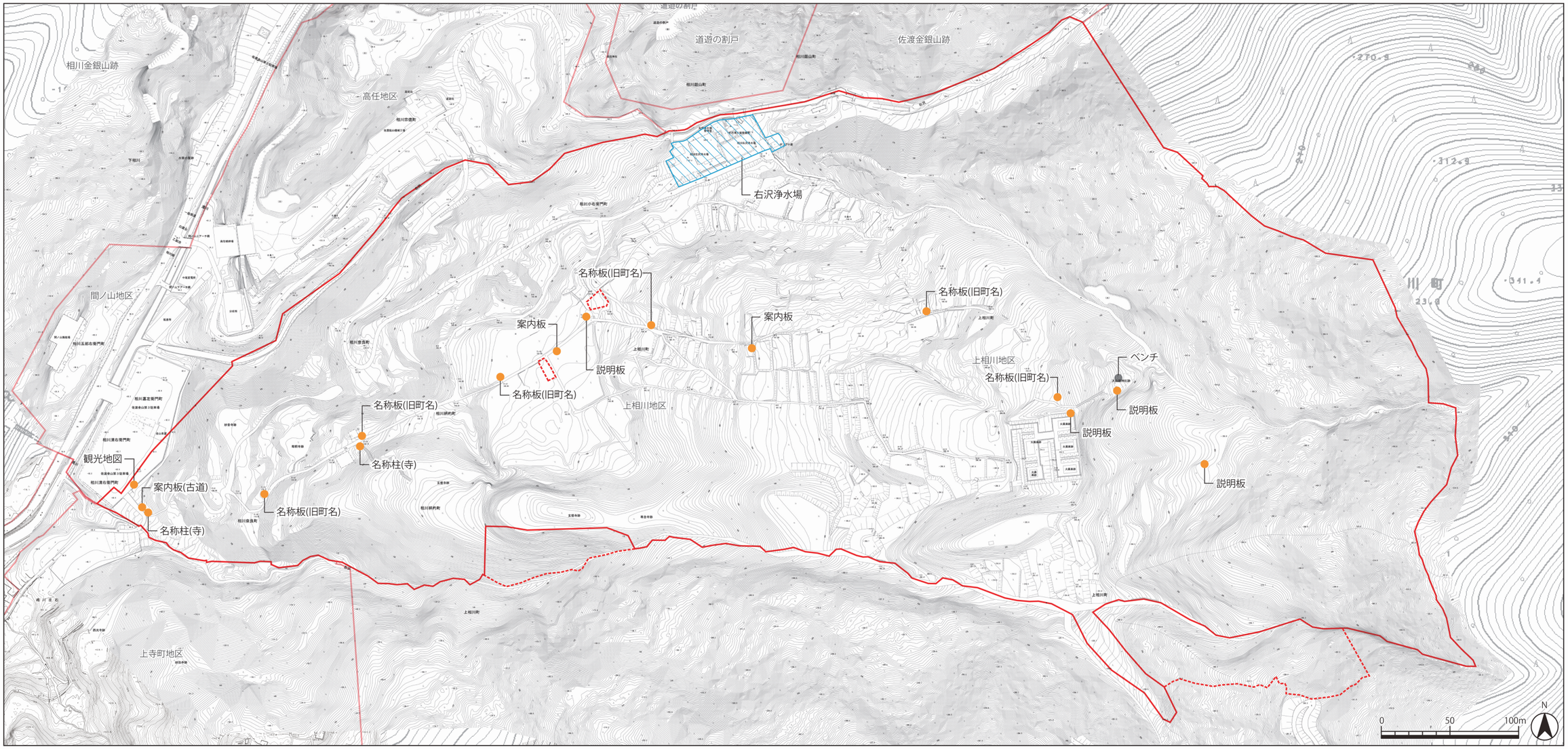


図 2-68：上相川地区遺構分布図



凡例

- 管理・便益施設等
- 説明板及び道標
- 史跡指定地(上相川地区)
- 史跡指定地(上相川地区以外)
- 追加指定予定地(上相川地区)

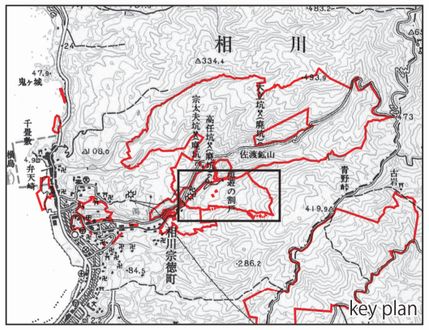


図 2-69：上相川地区施設分布図

（３）-12　上寺町地区

①概要

上寺町地区は、16 世紀末から 17 世紀初頭にかけて金銀の採掘が始まる相川金銀山の成立に伴う初期寺町域であり、現在の相川市街地の中寺町・下寺町が形成される端緒となった。地表面でテラス・石垣等の遺構や墓石等の石造物が良好に遺存していることに加え、文献資料等からも寺院群の変遷や規模等を知ることができ、江戸時代の鉱山関係者の生活・生業に係る信仰の一端を物語る重要な遺跡である。

慶長 6 年(1601)、相川金銀山における本格的な採鉱の開始に伴い、日本各地から多くの人々が鉱山にほど近い上相川地区や間ノ山地区に集まったが、その南に位置する上寺町地区では信仰施設である寺院群が開基していった。町の詳細な成立時期は不明であるが、慶長 9 年(1604)には「妙伝寺」が開基し、以降、1630 年代までに多くの寺院が建立していることから、少なくとも江戸時代前期にはまち並みが形成され、17 世紀初頭にはすでに諏訪町が成立していたと考えられる。しかし、宝暦年間（1751～1764）を境に寺院所在地から次第に上寺町の町名が使われなくなっていくことから、同町の寺院を除き人家が退転したため、まち並みが消えていったと推測される。文政 9 年(1826)「相川町町墨引」によると鉱山・勝場床屋労働者、買石、地役人、奉公人、職人、針仕事師などが居住していたことが判明している。

近代以降も引き続き同地域には町が存続しており、明治時代(1868～1912)には鉱山へ労働力を供給していた太田部屋・大塚部屋・佐藤部屋といった部屋頭の住居があった。また、昭和 10 年代には濁川沿いに鉱車軌道が敷設され、諏訪町や次助町に鉱山労働者用の合宿所（鉱山長屋）が建てられたが、鉱山の縮小と共に人家が減少していった。

上寺町地区における江戸～昭和期の寺院は 12 ヵ寺で、宗派別では、日蓮宗 5・浄土宗 2・浄土真宗 2・臨済宗 2・不明 1 となる。このうち、開基年代の最も古い寺院は、慶長 12 年(1607)に庄右衛門町に建てられた浄土宗源昌寺で、以後、慶長 16 年に臨済宗興禅寺、元和元年(1615)に浄土宗西光寺が次助町に開基する。寛永年間からは日蓮宗寺院の進出がみられ、寛永元年(1624)に妙法寺が建立され、寛永 6 年(1629)には法久寺の前身の法円寺（法休寺）と妙伝寺の前身の法華堂が上相川岩崎町から上寺町に移転している。このほか、年代は不明であるが、妙円寺も鶴子四十物町から次助町に移転しており、鶴子から相川へ金銀山の中心が移ったことを理由に、他の日蓮宗寺院と同様にこの地に移転してきたものと想定される。

その後も寺院の統廃合や移転が続き、正保 3 年(1646)に臨済宗慈徳寺（開基年代不明）が廃寺となった際には、その跡地は興禅寺の支配下に入り、承応 3 年(1654)以前に次助町に浄土真宗浄願寺（開基年不明）が存在していたことうかがえる。元禄年間(1688～1703)には、相川山ノ内（銀山町）の浄土真宗誠証寺と浄願寺が合併して諏訪町に万行寺が建てられ、上相川上山ノ神町の日蓮宗覚性寺が次助町に移転している。また、享保 2 年(1717)に妙円寺が下寺町の現在地に移り、同年、上寺町からいったん大坂町へ移転していた（時期不明）妙伝寺が妙円寺跡地に移っている。この元禄～享保期が上寺町地区に寺院が最も多かった時期で、計 8 ヵ寺（日蓮宗 4・浄土宗 2・浄土真宗 1・臨済宗 1）が同時併存していた。

しかし、それ以降は衰勢の一途をたどり、慶応 3 年(1867)、火事で焼失した西光寺が源昌寺へ併合されたことを皮切りに、明治に入ると覚性寺と源昌寺が廃寺となり、妙伝寺が福島県磐城地方(現伊達市)へ移転した。その後も、大正 14 年(1925)には妙法寺が山形県へ移転、昭和 2 年(1927)

には興禅寺が廃寺状態となり、昭和 17 年(1942)には法久寺も下寺町の法輪寺へ合併し、現在は浄土真宗万照寺（昭和 17 年に上相川の専照寺と合併して万行寺から万照寺へと改称）を残すのみとなっている。

②史跡の現状

上寺町地区は、現在の相川市街地から東方に入った標高 100～150mの中位段丘及びその斜面に位置する東西約 500m、南北約 300mの範囲で、総面積は約 9ha に及ぶ。北西に濁川、北東に桐ノ木沢が流れ、上相川地区及び相川金銀山跡と隣接している。

指定地は民有地が 9 割以上を占めており、大部分が山林となっているが、大規模な開発行為がなかったことから、現在まで良好な保存状態が維持されている。

平成 11 年度以降の佐渡市教育委員会（旧相川町教育委員会）による各種調査によって、江戸時代の町割りの形状を残すテラス状遺構や石垣・石積・寺跡・墓地等が良好に残されていることが確認されている。

項　目		内　容
指定面積		97,751.230 ㎡
土地所有		公有地（国有地：512.00 ㎡、市有地：15,671.47 ㎡） 民有地（66,041.41 ㎡）※鉱業権者（株式会社ゴールデン佐渡）、地上権者（東北電力株式会社：鉄塔用地として）
土地利用		指定地の大部分を山林が占め、一部に道路・河川施設がある。 指定地内には水道管が埋設されている。
地目		田・畑・宅地・山林・原野・墓地・水路敷・道路敷・雑種地
遺構		テラス 83 基（推定テラス 16 基含む）、墓域 8 基、石垣 85 基、石段 5 基、 石列 7 基、道 9 条、井戸 5 基、池 3 基、水路 2 条
遺構分布		・江戸時代の町割りの形状を残すテラス状遺構や石垣・石積・寺跡・墓地跡等の鉱山集落関連遺構が指定地全体に分布する。
施設分布	史跡整備関連施設	案内板、解説板、旧寺跡名称柱（宗教団体が設置）
	その他	道路、河川施設、水道管（地下）
維持管理状況		・保存団体等への委託による草刈等の維持管理が不定期で行われている。
公開活用状況		・現状はほとんど公開活用されていない。
法規制		文化財保護法（重要文化的景観） 景観法（佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観特別区域） 鉱業法（鉱業権登録地域） 都市計画法（都市計画区域（非線引き都市計画区域）） 農業振興地域の整備に関する法律（農業振興地域 白紙地域） 騒音規制法（第 2 種・第 3 種区域） 振動規制法（第 1 種・第 2 種区域）
調査等の履歴		昭和 45～48 年度　石造物調査（昭和 48 年　資料集刊行） 平成 11～12 年度　寺社調査（平成 15 年　報告書刊行） 平成 13・16 年度　石造物分布調査（平成 16 年　報告書刊行） 平成 24～25 年度　分布調査（平成 26 年　報告書刊行）

自然条件	地形・水系	・指定地は、現在の相川市街地から東方に入った標高100～150mの中位段丘及びその斜面に位置し、北西に濁川、北東に桐ノ木沢が流れる。
	植生	・環境省の2001年の調査（第6回･第7回自然環境保全基礎調査 植生調査）によると落葉広葉樹二次林のコナラが優占するイヌザクラ－コナラ群集が大部分を占め、谷部等がスギ・ヒノキ・サワラ植林となっている。 ・指定地の樹林は暖地系の樹木が卓越しており、全体的に幹が大きく、根を広く張る木が多いことが特徴となっている。また、ツル性草木、特にフジが大きく育っており、その影響で、立ち枯れした木や落枝が見られる。

〈指定地の現況写真〉

法久寺跡

写真 2-189：井戸跡

写真 2-190：墓地

妙法寺跡

写真 2-191：テラス

写真 2-192：石柱（寺院名称）・墓地

妙伝寺跡

写真 2-193：石柱（寺院名称）

写真 2-194：池跡

覚性寺跡

写真 2-195：水替無宿の墓

源昌寺跡

写真 2-196：石祠

西光寺跡

写真 2-197：テラスと石垣

写真 2-198：墓地

興禅寺跡

写真 2-199：基壇跡

写真 2-200：石段・石垣

寄宿舎跡（大塚部屋）

写真 2-201：テラス・石垣・石段

写真 2-202：　建物跡

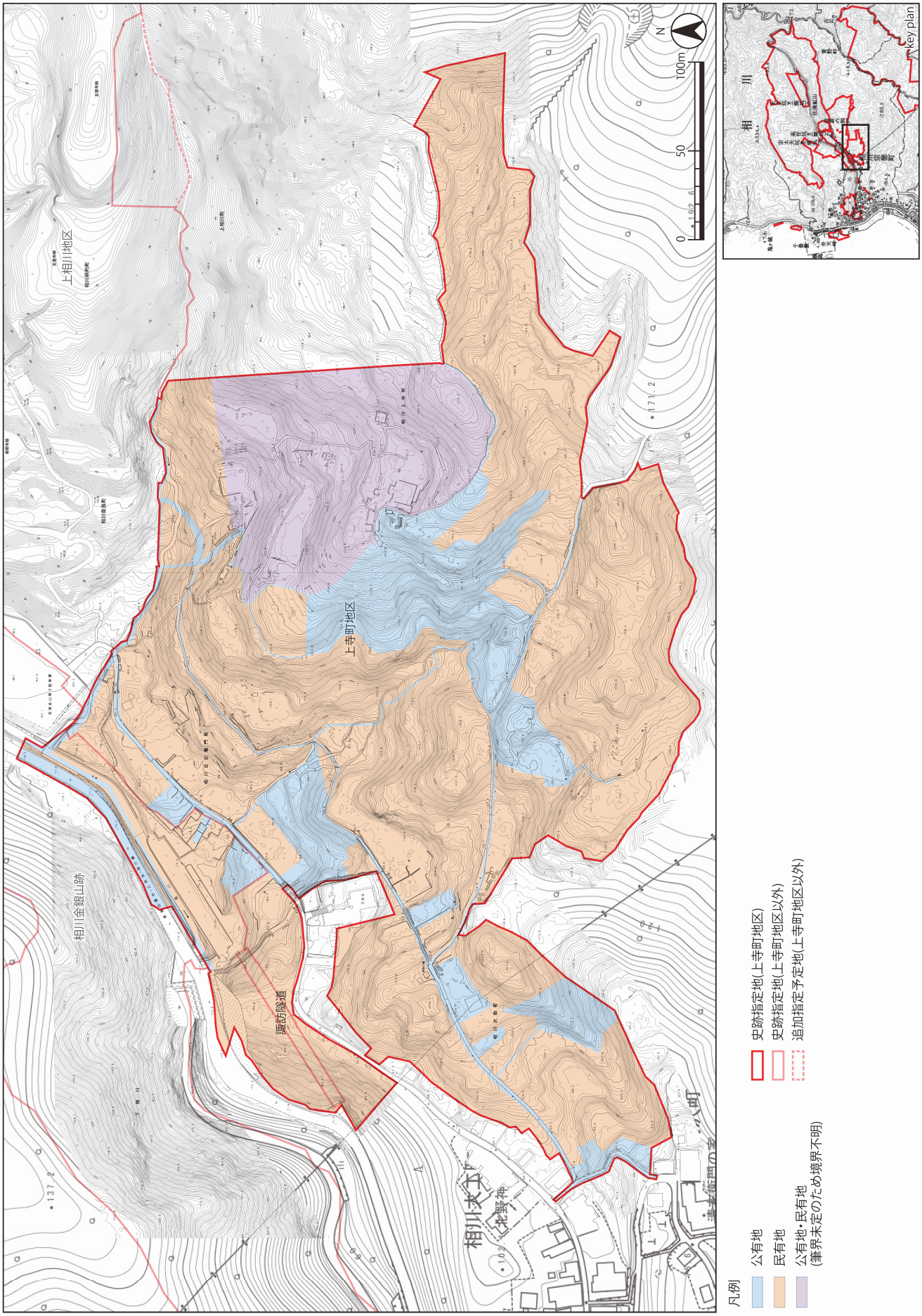


図 2-70：上寺町地区土地所有図

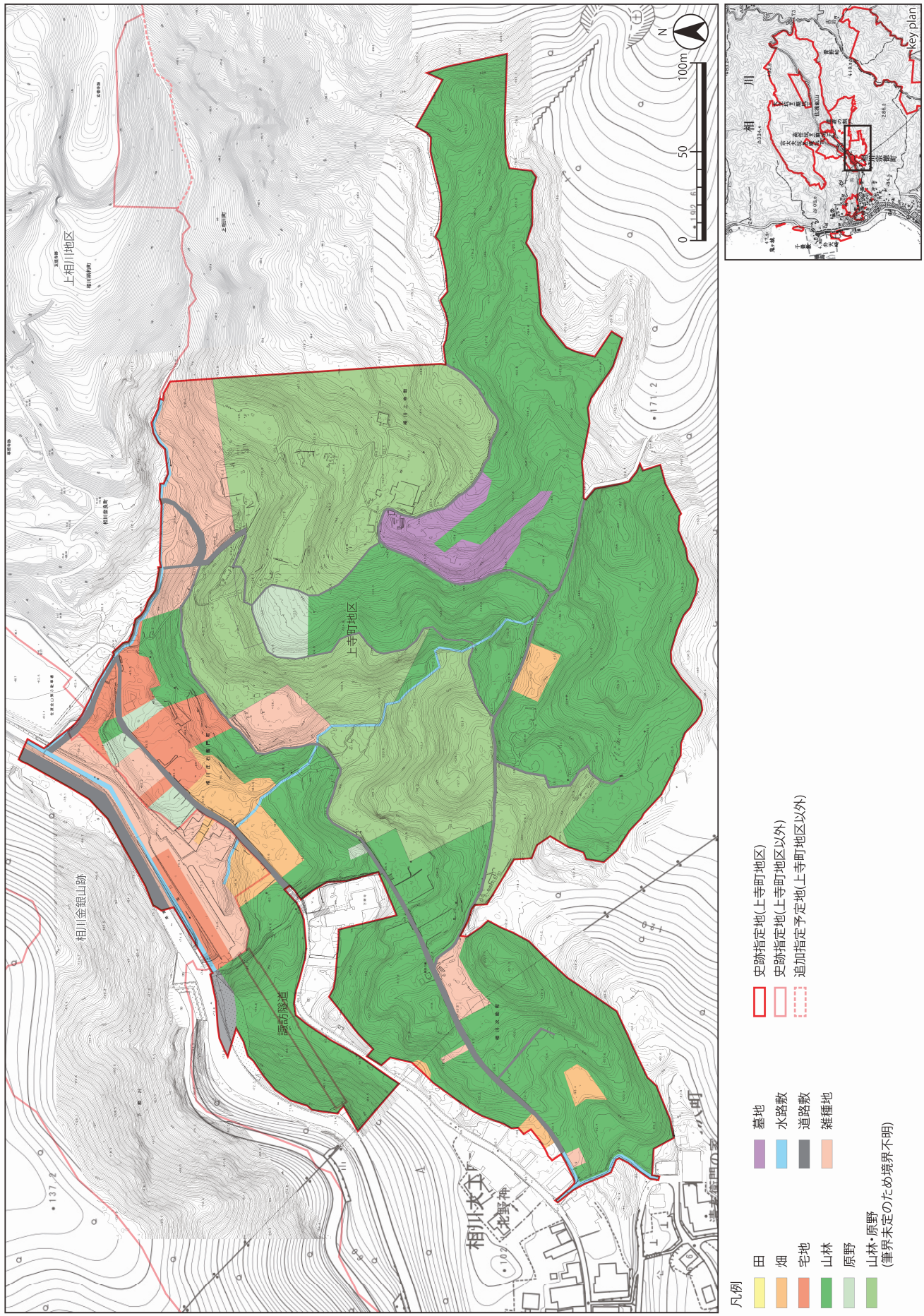


図 2-71：上寺町地区土地利用図